

デーリー東北

2025年(令和7年)4月10日(木曜日) (11)

八戸港から五戸経由、新郷までの40キロ

「キリストの墓巡礼路」考案

八工大工学部 観光需要拡大狙い

八戸工業大学工学部建築・土木工学コースの黒坂貴裕教授の研究室が、八戸市から新郷村までのトレイルコース「キリストの墓巡礼路」を考案した。区間は八戸港から五戸町を経由し、同村のキリストの墓までの約40キロ。特徴的な建造物などを巡りながら楽しむ設定となっており、青森県南地方におけるインバウンド（訪日客）や外国人滞在者の観光需要拡大に貢献したいと考えた。

（田村純也）

巡礼路は、八戸港フェリーターミナルを出発し、産業道路を経て豊崎地区へ向かう。その後は五戸町に入り、浅水地区を経由して新郷村。同村西越地区から北上して国道454号に合流し、ゴールのキリストの墓に到着する。八戸港フェリーターミナルを出発点に設定したのは、キリスト伝説が記されている「竹内文書」で、キリストが

町村を調査。洋館の趣を残す同村の旧消防団第2分団屯所など、現在ではほとんど見られなくなった建造物に着目し、これらをたどりながらキリストの墓をゴールとするコースを考案した。2025年度以降もコース上にある建造物の調査や安全対策の確立などに取り組み、内容の充実を目指す。黒坂教授は「クマ対策や環境整備など課題はあるが、住民の理解を得ながら、地域が盛り上がる巡礼路を構築していきたい」と意欲を見せた。

研究室のメンバーは、昨年秋にコース上の3市



「キリストの墓巡礼路」をPRする吉田巧樹さん



※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。